

水疱瘡ワクチン

知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis

多数のワクチン情報文書を、スペイン語およびその他の言語でご利用いただけます。
www.immunize.org/vis をご覧ください

1 ワクチン接種を受ける理由

水疱瘡（水痘とも呼ばれます）は、小児の間で一般的な感染症です。通常、症状は軽度ですが、特に年少乳児や成人において重篤な症状が現れる場合があります。

- 水疱瘡は発疹やかゆみ、発熱、疲労感を引き起こします。
- 重篤な皮膚感染症や傷跡、肺炎、脳損傷、死亡につながる場合もあります。
- 水疱瘡ウイルスは空気を介して、または水疱瘡による水ぶくれの液に接触することでヒトからヒトへと感染します。
- 水疱瘡に罹患した人物には、数年後に带状疱疹と呼ばれる痛みを伴う発疹が現れることがあります。
- ワクチンの導入前、米国では毎年 11,000 人が水疱瘡で入院していました。
- ワクチンの導入前、米国では水疱瘡が原因で毎年 100 人が死亡していました。

水疱瘡は水疱瘡ワクチンで防ぐことができます。

水疱瘡ワクチン接種を受けたほとんどの人が、水疱瘡にかかることはありません。ワクチン接種を受けた人が水疱瘡にかかっても、その症状は大抵非常に軽度です。水ぶくれの数が少ないだけでなく、発熱の可能性も低く、また回復も迅速です。

2 水疱瘡ワクチン接種を受けるべき理由と接種時期

定期接種

水疱瘡にかかったことのない小児は、以下の年齢において水疱瘡ワクチンの接種を 2 回受ける必要があります。

- 1 回目の接種： 生後 12～15 か月
- 2 回目の接種： 4～6 歳（1 回目の接種から 3 か月以降であればこれ以前に接種することも可能）

13 歳以上で過去に水疱瘡にかかったことがない、または水疱瘡ワクチン接種を受けたことがない人物は、2 回の接種の間隔を 28 日間以上空ける必要があります。

追加接種

ワクチン接種が完了しておらず、かつこれまで水疱瘡にかかったことのない人物は、1 回または 2 回の水疱瘡ワクチン接種を受ける必要があります。これらの接種のタイミングは年齢に応じて異なります。担当医にお尋ねください。

水疱瘡ワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能です。

注記：12 歳以下の小児であれば、水疱瘡ワクチンと MMR ワクチンの接種を個別に受ける代わりに、**MMRV** と呼ばれる水疱瘡と MMR ワクチンの両方を含む「混合」ワクチンの接種を受けることもできます。

3 水疱瘡ワクチン接種を受けるべきではない、または接種時期を延期すべき人物

- 過去に水疱瘡ワクチンの接種またはゼラチン、抗生物質ネオマイシンに対し命を脅かすほどのアレルギー反応を示した方は、水疱瘡ワクチンの接種を受けるべきではありません。
- 通常、ワクチン接種予定日の時点で中等度または重度の体調不良を抱えている場合は、体調が回復するまで接種を控えるべきです。
- 妊娠中の女性は、出産を終えてから水疱瘡ワクチンの接種を受ける必要があります。水疱瘡ワクチンの接種を受けた女性は、接種後 1 か月間は避妊するようにしてください。
- 以下を含む一部の人は、水疱瘡ワクチンの接種を受けるべきかどうかについて医師に相談する必要があります。
 - HIV / AIDS、または免疫システムに影響を及ぼすその他の疾患を患っている
 - 免疫システムに影響を及ぼす薬剤（ステロイドなど）による治療を 2 週間以上にわたり受けている
 - 何らかの種類のがんを患っている
 - 放射線または薬剤によるがん治療を受けている
- 最近輸血を受けた、またはその他の血液製剤を使用し



た場合は、水疱瘡ワクチン接種を受けることのできる時期について担当医にお尋ねください。

詳細については担当医にお尋ねください。

4 水疱瘡ワクチン接種に伴うリスク

他の医薬品と同じく、ワクチンは重度のアレルギー反応といった重篤な問題を引き起こす可能性があります。水疱瘡ワクチンが深刻な害や死亡を引き起こす危険性は極めて低いものです。

水疱瘡ワクチン接種は、水疱瘡にかかること自体よりもはるかに安全です。水疱瘡ワクチンの接種を受けるほとんどの人において、問題が発生することはありません。通常は、2回目よりも1回目の接種後に反応が見られる可能性が高いとされています。

軽度の問題

- ワクチン接種部位の痛みおよび腫れ（小児の場合は約5人中1人、未成年者および成人の場合は3人中1人以下）
- 発熱（10人中1人以下）
- ワクチン接種後最長1か月にわたる軽度の発疹（25人中1人） ワクチン接種を受けた人から他の家族に感染する可能性もありますが、これは極めて稀です。

中等度の問題

- 発熱による発作（けいれんまたは凝視）（非常に稀）

重度の問題

- 肺炎（非常に稀）

水疱瘡ワクチンの接種後に、脳への深刻な影響や血球数低下を含むその他の重篤な問題も報告されています。このような問題が発生することは極めて稀であるため、その原因がワクチンかどうかを判別するのは専門家にも不可能です。ワクチンが原因であるケースは極めて稀です。

注記：MMR ワクチンと水痘ワクチンの接種を個別に受ける場合に比べ、1回目のMMRV ワクチン接種は、より高い確率で発疹および発熱を引き起こすことがわかっています。20人中1人の割合で発疹が、また5人中1人の割合で発熱が報告されています。

また、MMRV 接種後に報告された発熱による発作の割合も高くなっています。これらの症状は通常、1回目の接種から5～12日後に発生します。

5 重篤な反応が見られた場合

注意すべき症状

- 重度のアレルギー反応の兆候や高熱、言動の変化など、懸念を感じるような症状に注意してください。

重度のアレルギー反応の兆候には、じんましん、顔や喉の腫れ、呼吸困難、動悸、めまい、衰弱などが含まれます。これらの症状は、ワクチンの接種から数分～数時間後に発生します。

症状が発生した場合の対処

- 重度なアレルギー反応または一刻を争うその他の緊急事態であると思われる場合は、911番に電話するか、この人物を最寄りの病院まで搬送してください。あるいは担当医に電話してください。
- その後、当該の反応についてワクチン有害事象報告システム（VAERS）に報告する必要があります。この報告は担当医が行うこともありますが、自身で行う場合はVAERSのウェブサイト（www.vaers.hhs.gov）を利用するか、1-800-822-7967にお電話ください。

VAERSが医学的な助言を行うことはありません。

6 ワクチン健康被害補償プログラム (VICP)

ワクチン健康被害補償プログラム（VICP）は、特定のワクチンにより健康被害を受けた人への補償を目的として策定された連邦プログラムです。

ワクチンにより被害を受けたと思われる方は、電話（1-800-338-2382）またはVICPウェブサイト（www.hrsa.gov/vaccinecompensation）を通じてプログラムについて情報を得る、またはクレームを提出することができます。賠償金を求めるクレームの提出には期限があります。

7 より詳しい情報を得るには

- 担当医に相談する。ワクチンの添付文書やその他の情報源を入手できる場合があります。1-888-767-4687
- 各地域または州立の保健局に電話をかける。
- 米国家疾病管理予防センター（CDC）に連絡する。
 - 電話：1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)
 - CDCのウェブサイト（www.cdc.gov/vaccines）

Vaccine Information Statement (Interim)

Varicella Vaccine

3/13/2008

Japanese

42 U.S.C. § 300aa-26

Office Use Only



DCH-0451J

AUTH: P. H. S., Act 42, Sect. 2126.

Translation provided by Hawaii Department of Health

正確な予防接種状況、予防接種についての評価、今後の予防接種の推奨スケジュールを医療提供者に提供するため、情報は Michigan Care Improvement Registry (ミシガン幼児予防接種記録所)に送られます。予防接種情報が同記録所に送られないよう医療提供者に要請できる権利が誰にでもあります。